

乾徳山旗立岩

伊豆・山梨

乾徳山はぶどう郷、勝沼・塩山の北、奥秩父の前衛に聳える名山である。標高 2031 m と小粒ながら、きりっと尖がった頂上、スリルある鎖場、そしてなにより富士山はじめ甲州を取り巻く山々の素晴らしい眺めなどからハイカーに非常に人気が高い。また甲斐の名刹、恵林寺の山号としても深い歴史を持っており、山梨百名山の一つにも数えられている。

また、ここには頂上直下に旗立岩という岩場があることも知られている。岩場は頂上稜線から南西に向かって派生した数本のリッジからなっており、そのうち東から 2 本目の中央稜がよく登られている。3~4 ピッチのスケールで内容的にはかなりやさしいが、アプローチに懸垂下降を要したり、やさしいゆえ逆に支点も少ないのでそれらを自分でセットしなければならないなど、意外と課題は多い。山岳会の新人の初めての岩登りや、安全管理を含めたロープワークの練習などにはなかなか使い勝手は良いように思える。

なお、中央稜の東側フランケには 84 年、岳登会の小俣智義らによって V~VI+ の 2 本のルート（図中右のライン）が拓かれている。が、再登されているかどうかは不明。

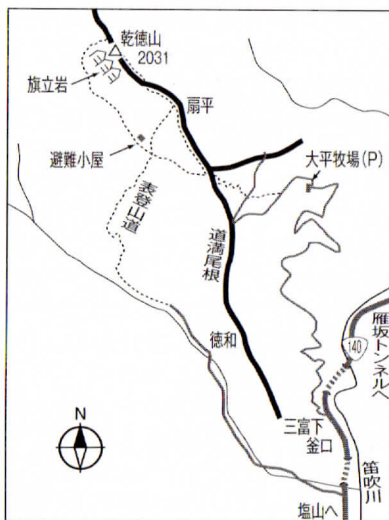
■アクセス 旗立岩が目的なら大平牧場からの入山が一般的だ。大平牧場までは細いながら舗装された道で、駐車場は整備されている（1日 800 円）。そこから道満尾根登山道を、扇平を経て頂上まで 2 時間。

中央稜

3~4p.5.6

旗立岩最長の岩稜で、アプローチの無名岩稜の頭から見るとなかなか迫力で切れ落ちている。末端ドームや東側側壁など手強そうだが、登るのは最左端のリッジ。出だし 20 m ほどの所に小ハングがあり、その乗越しが核心、というか唯一の本格的クライミングになる。第 1 ピナクルでピッチを切った後はほとんど III 級程度のクライミングで第 2、第 3 ピナクルと越え、頂上下の広場に出て終了となる。

アプローチは上記無名岩稜の頭からルンゼ状チムニー~ガレ場を懸垂 25 m x 2 回で下り、ブッシュ帯をクライムダウン+トラバースでリッジ末端を回り込んで逆側のルンゼに上がる。/CO.3~3、QD5~



乾徳山頂上からの旗立岩中央稜と富士山

